

令和三年度
座間市福祉推進作文・標語
入賞作品集

令和三年度座間市福祉推進作文・標語入賞作品集

目次

福祉推進作文

【小学校1・2年生の部 最優秀賞】

立野台小学校2年 伊澤 碧 「ぼくのともだち」2

【小学校3・4年生の部 最優秀賞】

立野台小学校3年 青木 優芽
「思いやりでいっぱいの明るいせかい」3

【小学校5・6年生の部 最優秀賞】

相武台東小学校6年 関 咲穂 「父の活動から学んだこと」5

【中学校の部 最優秀賞】

西中学校2年 伊賀 くるみ
「あなたにとって幸せとは？～コロナ禍でもできること～」7

【小学校1・2年生の部 優秀賞】

立野台小学校2年 玉森 優衣
「赤ちゃんがおなかにいるってどんなかんじかな」10

【小学校3・4年生の部 優秀賞】

相模が丘小学校4年 ファン ゴク ミン
「安心安全なまちづくりに必要なことは？」11

立野台小学校4年 末安 絢菜
「わたしがおばあちゃんにできる事」13

【小学校5・6年生の部 優秀賞】

相模野小学校6年 南 優奈 「笑顔は自分で生みだすもの」14

入谷小学校6年 宮崎 彩実 「満員電車」16

【中学校の部 優秀賞】

西中学校 2年	三浦 波竜	「命が教えてくれた事」	18
東中学校 2年	成重 芽唯	「大切な人を思う気持ち」	20

【小学校3・4年生の部 佳作】

座間小学校 4年	吉田 桃子	「目が不自由でも楽しみたい」	22
相武台東小学校 4年	須賀 翔太	「バリアフリーやユニバーサルデザインについて」	23
相武台東小学校 4年	山内 珠菜	「ヘアードネーションについて」	25
東原小学校 3年	柿沼 里沙奈	「お年よりの人」	27
東原小学校 4年	小林 陽愛	「体が不自由な人にできること」	28

【小学校5・6年生の部 佳作】

座間小学校 5年	荒倉 結桜	「だれのそばで見守る」	29
栗原小学校 5年	川口 心愛	「祖父が教えてくれた生きること」	31
ひばりが丘小学校 6年	西川 千晴	「高齢者と男性」	33
相模が丘小学校 5年	茂手木 紗会	「みんなで助け合う」	34

【中学校の部 佳作】

西中学校 2年	金城 渚々美	「幸せと当たり前」	36
東中学校 2年	小清水 茉奈	「かっこいいおじいちゃん」	38
東中学校 2年	コルテス ベルナディーニ アン アキノ	「助け合い」	40
東中学校 2年	中里 海斗	「認知症になってしまった祖母」	43

福祉推進標語

【最優秀賞】

栗原小学校 6年	吉村 倅汰		46
----------	-------	--	----

【優秀賞】

座間小学校 2年	伴野 楓		46
相模が丘在住	藤田 宗太郎		46

【標語の部 佳作】

相模野小学校3年 菊池 優子.....	46
東中学校2年 榊 瑠衣.....	46
新田宿在住 岩堀 多起子.....	46
相模が丘在住 鳥海 直子.....	46

※ 敬称略

本文中の表記については、原文を尊重しています。

福祉推進作文

【小学校1・2年生の部 最優秀賞】

ぼくのともだち

立野台小学校2年 伊澤 碧

ぼくのクラスにはそうすけくんという男の子がいます。そうすけくんは耳があまりきこえませんがぼくにとっては、とくべつなともだちです。

そうすけくんは、ぼくとおなじくらいのしんちょうです。そうすけくんは「ホネホネザウルス」という本がすきです。そうすけくんがにがてなことは人に話しかけることです。そうすけくんの耳はとちゅうからきこえなくなったようです。そうすけくんはふつうに話す声は聞こえるようです。でも話が聞こえないことがあって話しかけた人がおしきれていると思ってしまうことあるようです。そうすけくんに話かけると、ニコニコわらって話してくれます。

そうすけくんはたまにいじわるをしますがいっしょにあそんでくれたり話をきいてくれます。ぼくにとってはやさしいともだちです。

もしそうすけくんの耳がしっかり聞こえるようになれば、もっとたのしくいっしょにいられるとおもいます。

さいきんそうすけくんは「ロジャー」というほちょうきにちよくせつ音をとどけるきかいを学校にもってくるようになりました。それからはそうすけくんは人の話をよく聞けるようになりました。こんなすばらしいきかいがこのよのなかにふえて、そうすけくんや耳がきこえない人たちが幸せになるとしんじています。

【小学校3・4年生の部 最優秀賞】

思いやりでいっぱいの明るいせかい

立野台小学校3年 青木 優芽

「あれ、ねこちゃんかな。」

お母さんがうんてんしている車にお兄ちゃんとのっていた時の出来事です。車ではしをわたっていた時、はしのまんに車にひかれてくるしそうにもがいているねこがいました。そのねこは、茶色と白と黒のみけねこでした。まず、さいしょにその事に気づいたのは、うんてんしていたお母さんでした。

このままでは、いのちをおとしてしまうと思ったので、三人でどうしたらたすけてあげられるのだろうかと考えました。お兄ちゃんはいそいでスマートフォンで調べました。けがをした動物を見つけた時は、近くのけいさつしょか交番にそうだとするとよいと分かったので、わたしたちは近くの交番へ行きました。お兄ちゃんがおまわりさんにけがをしたねこの事をつたえました。おまわりさんはお兄ちゃんにすぐにたすけに行くと言ったそうです。

帰り道わたしたちが同じ道を通ると、そのねこはもういませんでした。きっとさっきのおまわりさんにたすけられたのだと思いました。わたしはこの時、すばやく行動したお兄ちゃんの事をすごいと思いました。

わたしにはもう一人お兄ちゃんがあります。二番目のお兄ちゃんは、道にまよってこまっている人をたすけた事があります。

わたしもしょうらいお兄ちゃんたちのように、動物にも

人にも思いやりがあって、こまっている人に気づいた時に、すぐに行動できる人になりたいです。小学生のわたしにできる事がないか考えて行動していきたいです。

たくさんの方が思いやりをもって、こまっている人をたすける人がふえると、みんながえ顔でしあわせにくらせると思います。

「思いやりでいっぱいの明るいせかいになってほしい。」
わたしはそう強く思っています。

【小学校5・6年生の部 最優秀賞】

父の活動から学んだこと

相武台東小学校6年 関 咲穂

私の父は、私が四才の時にすい臓がんになりました。父は、五年生存率二～三%と言われていたけど、大手術やつらい治りょうをたくさんのにこえてきて、奇せき的に八年近くも生きています。

これまでのいろいろな経験を生かして、父はさまざまな活動をしています。

たとえば、同じ病気で苦しんでいる人や、その家族にむけての講演をしたり、雑誌やテレビの取材に応えたり、絵本プロジェクトなどにも参加しているそうです。元々父は人前で話すのがあまり得意ではなかったようですが、勇気を出して行動してみることで、素晴らしい出会いがあったり、同じ悩みをもつ人たちを少しでもはげますことが自分の生きる力になっているようです。

父の活動の中でも、私は特に絵本プロジェクトに興味があるので、父にくわしく聞いてみました。

父が始めたきっかけは、がんになった時に周りに同じような病気の人がいなくて心細く、子どもを持つがん患者の集まりに参加してとても力をもらい、知り合った仲間と絵本を通して病気のことを子どもたちに伝えていきたいと思ったからだそうです。絵本を出版して、その活動で出会ったたくさんの人からはげましや元気をもったり、絵本を見た人から、「子どもと病気のことを話すきっかけができた。」と、感想をもらったりして、とてもうれしそうですし

た。これからも同じような病気の人に、「悩んでいるのは一人じゃないよ。」と、伝えていきたいそうです。

私は父とゆっくり話をしてみて、改めて家族で父の活動を支えていきたいと思いました。

私が大人になったら、今までの経験を通してだれかの力になれるような活動をしたいです。

【中学校の部 最優秀賞】

あなたにとって幸せとは？

～コロナ禍でもできること～

西中学校2年 伊賀 くるみ

「幸せ」これはふとした瞬間にある。だが「幸せ」とはなんだろう。あたり前のことすぎて私やあなただっけきっと考えたことも、それを知ることだっけないだろう。

「幸せ」を調べた。「心が満ち足りている」という意味だ。言葉だけではあまりピンとこない。幸せが数字で表されるならきっと規則性があるって簡単だろう。だがそうではない。

反対にその場その場で幸せも不幸も規則性がなく気まぐれだ。私たちに気まぐれな幸せを知ることはできないだろう。でも幸せを知らなければ、幸せになることもないだろう。だから考えるんだ。少しでもその答に近づくために。

「ずっとほしかったものを買った。」ことや「すごく美味しいケーキを食べた。」ことも、誰だっけ一度はあるようなことだ。私はこんな時、すごく嬉しくてたまらない気持ちになる。もはや「心が満ち足りている。」この状態に近いと思う。日常の小さな出来事にだっけ「幸せ」はたくさんあると思う。新しい筆箱を買ったとか、美味しそうないちごが安かったり。いつも幸せがあふれている。幸せの価値は人それぞれで、その人が幸せだと思えば幸せだし、不幸と思えば不幸だ。

ならどうすれば人によって価値観が違う中、全員が幸せ

になれるのだろう。誰かが幸せになることで不幸になる人だっていないわけではない。今の世の中も新型コロナウイルスの流行により、世界各国で爆発的な被害が出ている。これを幸せと呼べるのだろうか。いや呼べるはずがない。皆口をそろえて、「今年はコロナで何もできなかった。」「コロナのせいで行事が全てなくなってしまった。」などと言う。そう思うのは最もだが少し違う。コロナ禍だからこそできる幸せの形を1人1人が探すべきだ。みんな幸せが違えば、それぞれが幸せを掴むための努力をすればいいと思う。そうすれば、幸せになった理由が違って全員が幸せになれる。

私はコロナ禍の中で、「できないこと」より「できること」を見つけようとした。例えば、好きな絵を描いて、キーホルダーにしたり、漫画や本など、たくさんの物語にもふれた。また、家族でパーティーゲームや遠くて会えないおばあちゃんとテレビ電話をするなど、家族と1人の時間を大切にしたい。1人の時間はあまり日常の中でないが、リラックスでき、とても楽になれる。このように新しく気づけることもあり、今だからこそ取り組める事はたくさんあるんだ。

一方、自分の幸せの一部が「遊ぶ」ことなら注意しなければならない。幸せのため、人混みの中遊び、近所の高齢者に感染させてしまえば高齢者の幸せの時間を奪うことになる。自己中心的に遊んで人を不幸にするのは絶対にあってはならないことだ。

それなら自分の幸せを掴みながら、どうやって人の幸せを守るのだろうか。これに関しては別の幸せを探すしかないと思う。幸せとを感じるのが毎回違うように、一人一人数え

切れないほどの幸せがあり、一つなわけがない。「遊ぶ以外ない」というならそれはあなたがまだ自覚してないだけだ。小さな事から大きな事まで、嬉しいと思った瞬間を思い出してみよう。どうだろうか。浮かんできただろうか。それが自覚してなかった幸せだ。

思うに幸せとはどこまでいっても自分が心地いいと感じる瞬間を指す。同時に人の心は数字で計れないほど複雑でだれも分からないほどに謎だらけだ。だから面白い。さあ考えてみよう。

“あなたにとって幸せとは？”

【小学校1・2年生の部 優秀賞】

赤ちゃんがおなかにいるってどんなかんじかな

立野台小学校2年 玉森 優衣

いま、わたしの学校には、おなかの中に赤ちゃんがいる先生がいます。わたしは、おなかには赤ちゃんがいるってどんなかんじかなあって思いました。

二年二くみのささき れみな先生です。おなかにつよくものがぶつかってしまうと、赤ちゃんは、しんでしまいます。れみな先生がストレスをためてしまうと、赤ちゃんは、しんでしまいます。

二年生しか知らないことなので、二年生が思いやりをもったり、やさしさをもったりきょうかしくちゃいけないんだなあと思いました。みんなできょうか、チームワークを、つくっていきたいなあと思っています。

れみな先生の赤ちゃんのためにも、れみな先生のためにも、二年生みんなで、チームワークよくきょうかしていきたいです！！

【小学校3・4年生の部 優秀賞】

安心安全なまちづくりに必要なことは？

相模が丘小学校4年 ファン ゴク ミン

私は、三年生のときに、町中で白いつえを持った目の不自由な人を見かけました。そのときは、何をしたら良いか分からずに、じゃまにならないように道をゆずりました。

その出来事があったから、私は目の不自由な人について考えるようになりました。

例えば、車が通る道に目の不自由な人がいたらどうなるでしょう。その人は、ひかれてしまうかもしれません。そうならないために、目の不自由な人せんよう通路をつくったり、誰かがつきそったりする必要があるでしょう。

それから、目の不自由な人は、「大きいものがあるということ」は分かりやすい」と聞いたことがあります。しかし、おへそより下のものや小さいものは分かりにくいそうなので、放置自転車などはとても危険だということです。そこで、「放置自転車をやめてほしい」という呼びかけのポスターを作ったり、地いきの人に直接声をかけたりすれば良いと思います。

ほかにも、目の不自由な人をさべつするのは、絶対にやめてほしいです。目の不自由な人を自分とはちがうと思う人もいるかもしれません。しかし、自分とはちがうからといって、さべつしたり、いじめたりすることはいけないことだと思います。

このように、目の不自由な人せんよう通路をつくったり、放置自転車をやめるようポスターをかいたりしたいです。

そして、目の不自由な人だけではなく、耳の不自由な人や
ぎ足やぎ手をつけている人のためにも工夫をして、みんな
がくらしやすいまちづくりを考えたいです。

【小学校3・4年生の部 優秀賞】

わたしがおばあちゃんにできる事

立野台小学校4年 末安 絢菜

私には、年に一度しか会えないおばあちゃんがあります。

おばあちゃんは、足が不自由で、みんなのようにすたすたと歩くことができません。そこで私にはどのような事ができるか考えてみました。

まず最初に思いついたのは、おばあちゃんが助けをよんだらすぐに行き行ってあげる事です。

なぜかと言うと、すぐに行かないとけがをしてしまうかもしれないからです。

次に思いついた事は、おばあちゃんが探し物をしているときに私も一緒に探してあげる事です。なぜなら一人で探していると大変だし時間もかかってしまうので一緒に探してあげたいです。

さらに、お出かけするときには、手をひいてあげたりかたをかしてあげたりしたいと思います。

しかし、私がいいと思った事でもおばあちゃんがいやだと思ってたら、おばあちゃんとせっかく会えたのにいやな気分になってしまいます。だから、まずおばあちゃんの気持ちを聞いてお手つだいをしたいと思います。

作文を書いてみて、相手の気持ちを考える事が大切だと言う事が分かりました。これからは、おばあちゃんの気持ちを考えて私に、できる事をしていきたいと思います。

【小学校5・6年生の部 優秀賞】

笑顔は自分で生みだすもの

相模野小学校6年 南 優奈

私は、笑顔は自分で生みだすものだと考えています。それは、心と体、自分が笑っていれば周りに笑顔があふれだした経けんがあるからです。

駅のホームを歩いていると、人とかたがぶつかってしまいました。「ごめんなさい。」とあやまって相手を見ると、その人ははくじょうを持った障がい者でした。その人は、「こちらこそごめんなさい。」と頭をふかく下げてあやまってくれました。その人は、「ごめんなさい。」ともう一回いいました。わるいのは私なので何と返したらいいかわからず、とっさに「わるいのは、私です。ごめんなさい。」と返しました。しかし、「そのことじゃないの。」とその人はいいました。「心配かけて、ごめんなさいね。」とその人はいいました。なんでと思いましたか、その人は「はくじょうをもっているってつらいのよ。」そう言いました。なんでかなと思いましたかその人は「あのね、心配されるってつらいのよ。」そういいました。「だってね、私にとっては心配されるだけでもつらいのにはくじょうをもっているだけでまた、心配されるのよ。」といいました。確かに考えたことなかったけど心配されるのはつらいなと思いました。しかし、その人はなぜだか私がかたをぶつけてしまったときから笑顔でいました。なんでそんなに笑っていただけるのだろう。その人にきいてみると「私は笑顔は自分で生みだすものと思っているの。だから私はど

んなにつらくとも笑顔を大切にしているの。それに笑顔の力は、どんなときでも、心と体をゆたかにしてくれるのよ。そしたら気づくと、周りが笑顔であふれているのよ。みえないけど感じるのよ。」こんなこと考えたことなかったと思いました。

私は、こんなことがあったので笑顔は自分で生み出すものということを大切にしています。この言葉は毎日の人生に笑顔をてらす、そんな、すてきのおまじないです。

【小学校5・6年生の部 優秀賞】

満員電車

入谷小学校6年 宮崎 彩実

私は、家族と電車に乗ってすわっている時に、あるこうけいを見た。それは、優先席にすわるわかい人と、その前に立っている、おばあさんだ。おばあさんは、買い物の帰りなのか、両手にふくろをぶらさげていた。一方わかい人は、スマートフォンに夢中になっていて、おばあさんの方を見向きもしていなかった。

私は、家に帰ってからもおばあさんのことが頭からはなれなかった。電車に乗っている時は、わかい人は、なぜゆずらないのだろうと思っていたが、家に帰るときには、この気持ちがイライラに変わっていた。

私は、なぜゆずらないのだろうと思っていた。そのことをお母さんに話したら、

「でも、それを見ていたなら自分が声をかければ良かったんじゃないの？わかい人もわるぎは、なかったと思うけどそのようすを見ていたなら、声をかければおばあさんもうれしかったんじゃないの。」

私は、その言葉を聞いてはっとした。自分は、見ていただけで何もしていない、おばあさんの役にも立てていない、さっきまでのイライラがだんだんはずかしさに変わってきた。

あの時、声をかけていれば、おばあさんに席をゆずっていたら、そう思うと今でもこうかいしている。その時は、まだ勇気がなかったのかもしれない。まだ声をかけられる

自信がなかったのかもしれない。でも今は、ちがう。だれかをよろこばせたり、優しくしたりするのは、私にとっては、あたり前のこと。

それを、行動でしめしたいと私は思う。

今では、電車に乗っている時以外でも、周りを常に見てこまっている人がいたら助けるということを心がけている。これがずっと続くようにしたいと思った。

【中学校の部 優秀賞】

命が教えてくれた事

西中学校2年 三浦 波竜

「よっしゃー」小学二年生の僕は毎日のルーティンのように友人と遊んでいた。彼は他の人と比べて格別に優しくかった。毎日遊んでいたし学校では常に話をしていた仲だった。

ある日、僕はいつも通り学校へ登校した。すると急遽「朝会がある」と言われ何事かと思う中朝会は始まった。すると「〇〇くんが病気で入院することになった」とあの友人の名前が出されたのだ。ショックだった。

そして一ヵ月後、彼は亡くなった。優しくて面白くてたくさん話をしてくれる、そんな彼が大好きだった。「悔しい」「悲しい」「寂しい」色々な気持ちが心の中へまい込んできた。

この時気づけた事、それは友達はどのような存在か、生きる意味とは何か、命はどのようなものなのかの三つだ。友達とはいて当たり前ではなく人を成長させてくれる存在、人の人生を幸せに楽しくさせてくれる存在の事だ。自分を幸せに楽しくさせてくれ、時にはケンカをしたり言い合いをしたりしてたくさんの事に気づかせてくれる。そのことに感謝をし続け、友達を大事にしないといけないのだ。

友人が亡くなった時みんなが悲しんでいた。この事から苦難があってもあきらめずに一生懸命頑張って生きることこそ意味のあることだと知った。そしてその姿が周りの人にも影響を与えていくのだ。あきらめないことは大変なの

かもしれないけれどそこにはもっともっと色々な意味が
まわっている。

そして命について。命というのは非常に偉大なものであり、なによりも大切に守らないといけないものだ。自分の持っている命は何兆分の一の確率で生まれてきたくらい価値のあるもの。友達の命がなくなることで自分もたくさん涙を流すくらい悲しかったし、自分以外も同じような思いをした人もいるだろう。それ以上の悲しい気持ちを持った人もいたにちがいない。それくらい価値のあるすばらしいものだから命は大切に守っていく必要がある。

この経験から色々な事を感じたくさんの事に気づかせてもらった。そんな僕に命が教えてくれた事は「周りの人に感謝をし続ける」という事。これは誰もが当たり前と思うかもしれないが実際これをし続けている人は少ない。なぜならやってもらえて当たり前と思ってる人が多いからだ。今回の大切な友達の事について考えることで生きることについても命についても気づくことができた。もし彼がいなければ小学二年生の一年間も楽しくなかったと思うし友達関係の部分でも成長できなかった。

人は周りからの色々な支えや手助けでたくさん事に気づきたくさんの事を感じ少しずつ成長していく。だから腹の立つ事があってもめんどうくさい事をやらなくてはいけなくても最後は必ず感謝をしなければいけない。僕も親や友達、先生にも感謝をするように心がけている。今も心にしっかりと残っているあの友人にも感謝を伝えたい。

「ありがとう」と。

【中学校の部 優秀賞】

大切な人を思う気持ち

東中学校 2年 成重 芽唯

私には、五年前に脳の病気で倒れ、右半身を全く動かすことができなくなってしまった祖父がいます。

倒れた日から祖父は、毎日薬を飲み続けていて、長い間リハビリも受け続けています。

祖母は、「じいじのリハビリを手伝ってくれている人や、じいじの命を救ってくれたお医者さんには本当に感謝の気持ちでいっぱいだよ。」と何度も話してくれました。

そのおかげで今では、一人で散歩に出かけることができるくらい回復しました。それでも、まだ右半身は全く動かせない状況が続いています。

ですが、私は身近に祖父のような人がいたので、自分では考える機会が少ない事について理解することができました。私は、今後祖父のように体が不自由な方と出会ったら、その人たちにとって自分はどのような存在になればいいのかということ意識して行動したいと感じました。

一番大切なのは、その人にとっての〈支え〉や〈助け〉になることだと思います。

私も幼い時に、病気にかかり入院していた期間がありましたが、怖い入院や治療を乗り越えることができたのは、家族の支えや助けがあったからだと思います。

祖父は現在でも車イスを使うことが時々あり、立ち上がったたり、座ったりすることがとても大変そうです。そんな時、祖母や私の両親は祖父をかかえ、車イスに座りやすい

よう支えたり、全く動かない右半身の体の助けをしています。

すると、祖父は感謝の気持ちを伝えるため「ありがとう。」と言うように笑ってくれます。その笑顔を見て、く支え>やく助け>の大切さに気付くことができました。

ですが、自分は私の祖父と同じ病気になったことがあるわけではないし、その人たちの気持ちなんてわかるわけない、と思っている人も、もしかしたらいるかもしれません。私も、前まではそう思っていました。でも、祖父や祖母、私の両親はそんな私の気持ちを受けとめてくれました。その理由は私が思っていることをちゃんと伝えたからでした。

祖母や両親は、「じいじに対して本当に思っていることを伝えてくれてありがとう。芽唯は、じいじの気持ちをわかってあげようと一生懸命頑張っているんだね。」と優しく、温かい言葉で私に伝えてくれました。

そして私は、もう一つが一番大切なことに気付きました。

それは、『大切な人の気持ちを理解しようとする気持ち』です。

私の大切な人が、「元気で笑っていてくれること」が一番です。

私という存在が大切な人や友達を優しく照らす太陽のような温かいものになるよう、これからもたくさんのく支え>やく助け>になれるように頑張ります。

そして、これからも祖父や周りの人たちが笑顔で生活が送れるよう、大切にしていきたいと思います。

【小学校3・4年生の部 佳作】

目が不自由でも楽しみたい

座間小学校4年 吉田 桃子

わたしが買い物をしているとき、もうどう犬といっしょに来ている人を見ました。もうどう犬が合図をすると、その人は、たなの横をとおりすぎて行きました。よく見ると、犬の首には、リードではなく、取手のような物があり、それをにぎって、歩いていました。

もうどう犬は、一声もほえずに、体をふって合図をしたり、しょうがい物があればよけてあげて、目が不自由な人の安全を守っていました。

人と動物が助け合って生きていって、おたがいの心が通い合うことは、とてもすてきだと、わたしは思います。また、もうどう犬が人の生活をささえるのは、目の不自由な人が少しでもくらしをゆたかにするためなのかなと思いました。

そして、目が不自由な人は、買い物をとても楽しんでるようでした。なので、わたしは、もし体が不自由な人がいたら、道をあけてあげたり、こまっていたら、話しかけたりして、その人が少しでも楽しんだり、らくができたらいいなと思いました。また、少しでも「福祉」につながる行動をして、不自由な体を持つ人の力になりたいと思いました。

【小学校3・4年生の部 佳作】

バリアフリーやユニバーサルデザインについて

相武台東小学校4年 須賀 翔太

ぼくはバリアフリーやユニバーサルデザインについて何も知らなかったもので、じしょや本で調べてみました。

バリアというのは、さまたげになるもののことで、これをとりのぞくことがバリアフリーです。例えば、目の見えない人たちでも使いやすいシャンプーのボトルのことです。工夫は、コンディショナーと区別するために、シャンプーの容器の横にギザギザをつけたことです。今はそれがふつうですが、花王株式会社の青木さんによると、開発チームはたくさんを試作品を作り、一年い上かけて、まちがえな容器を作ったそうです。そして他の会社にも、

「どうぞ、このアイディアを使ってください。」と、よびかけたので、今ではどのシャンプーを買ってもギザギザがついています。

次に、ユニバーサルデザインは、せい別、年れい、人種などに関係なく、全ての人が利用しやすいように作られたしせつや、せい品などのデザインのことで。

総合の時間に先生がしょうかいしてくれたはさみが右ききの人でも左ききの人でも使いやすく、まさにユニバーサルデザインの意味がこもったはさみだと思いました。

ぼくは左ききなので、体がふ自由な人たちのふべんさが少しわかります。色いろな人がいることを知り、相手の気持ちを考えながら、一年間福しの勉強に取り組んでいきたいです。

さんこうにした本 バリアフリーを考えよう
発行所 株式会社ポプラ社

【小学校3・4年生の部 佳作】

ヘアードネーションについて

相武台東小学校4年 山内 珠菜

私はヘアードネーションについて調べました。

ではヘアードネーションについて説明します。ヘアードネーションとは病気などでかみの毛がなくなってしまった人のために美容室でかみの毛を三十センチ以上かみの毛を切ると病気などでかみの毛がなくなってしまった人に三十センチ位のカツラを作ってその人たちの代わりみたいな感じになります。つまり私たちがかみの毛を三十センチ以上切るとその人たちの役に立てているということです。

けどその一方で三十センチ以下だったらその人たちの役に立ちたくても役に立てません。だから、その人たちの役に立ちたいのなら例えばお母さんに、

「美容室でかみの毛を切りたい。」

と言う前にお母さんに、

「ショートカットにしたいんだけどショートカットにするのに三十センチある？」

などと聞くと良いと思います。福祉とは人々の幸せと幸福と言う意味なので病気などでかみの毛がなくなってしまった人の幸せとはかみの毛をもらえることなので私たちに出来ることは三十センチ以上かみの毛を切ることです。病気などでかみの毛がなくなってしまった人たちに幸せをあげたいのなら、かみの毛を三十センチ以上かみの毛を切ることが大事だと思います。

子どもでも病気でかみの毛がなくなってしまった人もい

るのでそのために三十センチ以上かみの毛を切りたいと思います。

【小学校3・4年生の部 佳作】

お年よりの人

東原小学校3年 柿沼 里沙奈

ふくしのべん強をしてわたしは、電車にいたおばあちゃんのことを思い出しました。わたしは、おかあさんと電車にのりました。そしたらお年よりのおばあちゃんがつらそうにしていたいました。わたしは「だいじょうぶですか？」と声をかけました。そしたら「だいじょうぶだよ。」とおばあちゃんと言いました。でもつらそうだったのでわたしは「すわってどうぞ。」と言いました。そしたら「ありがとう、やさしいね。」とおばあちゃんと言いました。わたしは、おばあちゃんにそう言われてとてもうれしかったです。おかあさんにも「やさしいね」と言われました。とてもうれしかったです。

もっと、つらそうにしている人がいたらたすけてあげたいです。そして、わたしはやさしい人になりたいです。これからは、こまっている人、つらそうにしている人をたすけてあげたいです。

【小学校3・4年生の部 佳作】

体が不自由な人にできること

東原小学校4年 小林 陽愛

わたしのおばあちゃんは体が、不自由なのです。だからおばあちゃんは、外に出ておさん歩に行くときには、つえをもってわたしと手をつないでおさん歩をしています。また、おふろや着がえたりするときにはヘルパーさんがきて、おふろではあらうのを手伝ってくれて、着がえるときにはズボンや、Tシャツを着させてくれるそうです。他には、おかいものに行くときはわたしがおばあちゃんに何を食べたいのかほしいものを聞いて、メモを取りスーパーマーケットやコンビニに行っておばあちゃんがほしいものを買っています。たまに、旅行に行くときにはくるまいすに乗っています。それは旅行では遠いところに行くので、つかれたりしてしまふから、つかれないようにくるまいすに乗って旅行をしています。おばあちゃんの家はちがさきでわたしの家からは、遠いので土曜日か日曜日しか行けないのでおばあちゃんの家に行ったらたくさんのお手伝いをしています。おばあちゃんに、お手伝いをすると「ありがとう」と、言ってくれるので元気をもらえてうれしいです。これからも、おばあちゃんが幸せにすごせるようにたくさんお手伝いをしたいと思っています。

【小学校5・6年生の部 佳作】

だれのそばで見守る

座間小学校5年 荒倉 結桜

私は、道徳の時間にちひろさんという女の子が、お年寄りのためにクッションを作り、お年寄りの支えになるという話を読んで、私にはちひろさんみたいに知らない人に親切なことをできる優しさはないなと思いました。

身近な人のことは、性格やどんな人なのかを知っているので何でも話せるし、「心配」という気持ちもありません。でも、知らない人だと、その人がどんな性格で、どんな人なのかわからないので、自分が何かをするとその人にどのように思われるのか心配になります。だから、ちひろさんみたいに、人の様子を見たり、自分が目立つと思われることはあまりしたことはありません。

ちひろの優しい姿を見ると、「すごいな、私にはできない。」という気持ちだけがでてきて、「私もやってみよう。」という気持ちはなかなかもてませんでした。それは、やっぱり心配だからです。知らない人から初めて見られた私の印象がずっとその人の心の中で続くと思ってしまいます。私は、この話しを読んで私とちひろさんを、見くらべた時に二つちがう所があることに気づきました。一つ目は、強い心がない。二つ目は、行動力がないということです。だから、私には、ちひろさんに見習うことがたくさんありそうです。

そんな中でも私にできそうなことがありました。それは、見守ることです。ちひろさんみたいに、近くでお年寄りを

見守ることなら私にもできると思いました。例えば、学校で小さな子が何かわからないことがあったら、教えてあげて、見守る。そうすることで、自分の一人の力じゃ学校は支えられないけど、小さな子に教えて見守ってあげたら、次はその子が他の子に教えて、どんどんそれが広がってたくさんの方で大きな支えになります。だから、ちひろさんが作ったクッションがお年寄りの支えになったように、私も少しでも人を支えられたらと思います。そこは、少しちひろさんに近づけたと思います。私はこれから、自分が見つけた、「見守る」ということを大切にしたいです。

【小学校5・6年生の部 佳作】

祖父が教えてくれた生きること

栗原小学校5年 川口 心愛

私の祖父は右足が悪いです。なぜなら、私が幼いころに、祖父と一緒にプールで遊んでいる時に階段を歩いていたら祖父がすべって落ちてしまったからです。そのまま救急車で病院へ運ばれてしまい、足が悪くなってしまいました。私は、思うように足が動かさない、すぐ立ち上がれない祖父が可哀想だと思いました。祖父のために何かできることはないか自分なりに考えた事や、実行していることがあります。

バスや電車で見かける優先席を知っていますか。優先席とは、混雑時でも障害者の人や妊婦さん、赤ちゃんを抱えてる人などが座れるためにあるものです。もし祖父と電車に乗っている時に、優先席に健常者が座っていたら声をかけて譲ってあげたいなと思います。または、優先席が座る人だけで満席のとき、自分が座っていたら譲ってあげたいなと思います。

二つめは、私はよく祖父と一緒に映画を見に行きます。スマホもしくは映画館で席を取るときに、祖父の右足が伸ばせるように右に人がいなく、スペースが出きるように席を取るようになっています。祖父と映画に見に行くとき、弟も来ることが多いのですが母がいないので、祖父に迷惑を

かけないよう一番右側の席ではなく、他の席まで弟を誘導してあげます。映画中も大丈夫か面倒を見たり、出入りする時や席に着くまで見たりしています。

私は祖父から、頑張って生きるということを学んだ気がします。私たちは、元気に生きていることでも幸いなのに、障害者の人たちや病気の人たちなどは、皆と同じように生きようと常に生きることを頑張っています。なので、私はこう思いました。生きることを頑張ろう。生きることが辛くなったら、頑張って生きている人がいることを思い出そうと。

【小学校5・6年生の部 佳作】

高齢者と男性

ひばりが丘小学校6年 西川 千晴

習い事から帰っている途中の電車の中での事。ぼくは疲れ果てていて、席に座っていた。「〇〇〇〇、〇〇〇〇です。ご乗車、ありがとうございます。」という放送と同時に、つえをついている高齢者が乗ってきた。ぼくは席をゆずろうと思っても、ゆずりたくない。なぜかって、ぼくは疲れ果てている。でもな～、やっぱりな～どうしよう、なんて思っていると、ぼくの目の前の疲れていそうな男性が、「あの、おばあさん、席、どうぞ。」と言った。「え？本当に変わっていいの？」とぼくは思った。でも男性は、笑顔で、優しい口調で、席をゆずっていた。ぼくは、「優しいな。」と感心した。おばあさんは、「ありがとうね。」と笑顔で返していて、男性もうれしそうだった。席ゆずればよかったと後悔したけれど、ぼくも、男性のような、思いやりのある、優しい人になりたいと、改めて感じるようになりました。

ぼくは、まだ一度も、電車の中で席をゆずったことがありません。ですが、この話の電車の中で席をゆずった男性のおかげで、「思いやり」という言葉を、改めて大切だと感じる事ができました。席をゆずることだけでなく、重い荷物を持ってあげたり、困っている人がいたら声をかけたりすることのできる人になりたいです。

【小学校5・6年生の部 佳作】

「みんなで助け合う」

相模が丘小学校5年 茂手木 紗会

私は、福祉（みんなの幸せ）についてこう考えます。

みんなが幸せになるために、自分あたりまえに出来る
ことができない人を支えてあげることが大切だと思います。
なぜかという、私には一人のお姉ちゃんがあります。私の
一つ年上なのですが、そのお姉ちゃんには、持って生まれ
たしょうがいがあります。お姉ちゃんは、べんきょうもみ
んなよりおくれていたり、うまくしゃべれないこともあり
ます。そして、みんなあたり前にできてることができな
いこともあります。例えば、うまく相手としゃべることが
できなかったり、べんきょうがおいついていなく、かけ算、
たし算、ひき算なども手をつかわないとできなかったり、
とみんなより一人でできることが少なく、学校でもみんな
に助けてもらわないとできないことが多くあります。です
が、まわりにいる子たちは、お姉ちゃんがこまっていたり、
できていなかったりするとすぐに、「だいじょうぶ？」
「これはこうするんだよ。」とやさしく教えてくれてみん
なすごくやさしくてその度に私は、幸せなかんきょうで生
きているな。と思います。お姉ちゃん本人も友だちがたく
さんいて、毎日ニコニコして帰ってきます。自分もまわり
の人に支えられて生きているので、みんなで助け合い、そ
うすればみんな幸せになれると思います。

これから、こまっている人がいたら、自分から積極的に
助けたいと思います。そうすれば、自分の心もふわ

ふわするし、想手もうれしくなると思ったからです。これからは、みんなで助け合い幸せなかんきょうで、世界中の人たちに笑顔になってほしいです。

【中学校の部 佳作】

幸せと当たり前

西中学校 2年 金城 渚々美

突然ですが私には家族の中でも一番と言っていいほど大好きで大切なおじいちゃんがありました。私のおじいちゃんは今から約六年前にがんでこの世を去ってしまいました。

何事もなく幸せだった日々が二〇十五年四月二十一日で終わってしまいました。おじいちゃんは前からがんがあり入院し治療をするのを繰り返していました。その頃の私はまだ小さかったのであまり理解できていなく心配すらしていませんでした。おじいちゃんは家にいるのが大好きであり外には出ない方だけれど、私の習い事の発表会には毎回絶対に来てくれるとても優しい人でした。

ある日、私が家にいると一台の電話が鳴りました。その内容は「おじいちゃんが倒れて病院に運ばれた。」という内容でした。私はその時、理解しきれずに頭が真っ白になってしまいました。

病院に着いて、おじいちゃんのいる場所に行った時にはもうすでにいつもとはちがう変わり果てた姿になっていました。もう既に夜になっていて外は暗く、おじいちゃんの容態は落ちついていたため私と妹、そしてお父さんは一度家に帰る事になりました。家につき夜も遅かったので寝ようとした時に再び電話が鳴りました。その内容は「おじいちゃんが息を引き取った。」という内容でした。病院に着くと私のお母さんは泣きくずれていて場の空気がとても重たかったのを今でも鮮明に覚えています。私は過去の幸せ

すぎた、楽しい毎日が頭をよぎっていました。亡くなる寸前におじいちゃんの横に一緒にいられなかったのが悔しくて苦しくてとても辛かったです。それからの半年は何もする気が無く、ほぼ毎日泣いていました。

それから数年たった今は、私が大好きなダンスを続けて九年たち天国のおじいちゃんが見守ってくれていると思いながら日々ダンスをしています。学校では行事の実行委員長に自分から積極的に立候補して色々な仕事をやりとげています。こんな私がリーダーをやっても、クラスの人や先生などが話を聞いてくれるのでやりがいのある仕事ができ毎日本当に幸せで大切な一日になっています。

私がこの事を通して伝えたいことは、毎日している当たり前は当たり前では無いことです。いつ何があるかわからないからこそ毎日を笑って幸せに過ごしてほしいということです。あなたのそばにいつもいてくれる大切な人は何があっても手放してはいけないということを私は理解することができました。これを見ている一人でも多くの人に幸せな当たり前をより大切にしてほしいと伝えたいです。

【中学校の部 佳作】

かっこいいおじいちゃん

東中学校2年 小清水 茉奈

私の周りには、今まで介護を必要する人はいませんでした。その時、私は福祉のことはあまり分からず、あいまいな感じでした。

そんな中、元気だったおじいちゃんがせきずいの病気になり、介護が必要な体になってしまいました。私は福祉がどういうものかまったくわかっていなかったのので、何をしたらいいのか分かりませんでした。だけど、私がやれる事を頑張っ、手伝いをしていたら、今は、昔より役に立っているような感じがしました。

私は、福祉の力を借りてリハビリを頑張り、病気に向き合っているおじいちゃんを見て、すごいなと思いました。なぜかという、私が熱を出してしまって、リハビリがなくなってしまうても、別の日に先生にたのみ、リハビリを頑張っていたからです。他には、転んで大怪我を負っても、めげたり諦めないでリハビリを頑張っているからです。そんなおじいちゃんを見て私は、体が不自由だからやらない、自分はこれが苦手だからやらないではなく、何ごとにも挑戦することが大事であると思いました。

私は集中力がなく、すぐ諦めてしまうくせがあります。だから私は、すぐに諦めずにいろんなことを頑張っていきたいと思います。

私の家は、二世帯住宅で、おばあちゃんとおじいちゃんと一緒に住んでいます。そのぶん色々な高齢者の方との関

わりも増えてきていて、おじいちゃんが友達と一緒にいるところを見ると、いつもおじいちゃんは笑顔です。私はその光景を見て、なんであんなに体が不自由で大変なのに、こんなに笑えるのって、おじいちゃん本人に聞いてみました。おじいちゃんは「自分自身が元気にしていれば周りにもいっぱい元気な人がよってくる」と言いました。私はきっとおじいちゃんがいつも笑顔でいるのは、元気でいることで、周りも元気になって、いつのまにかおじいちゃんも周りの友達の高齢者の方も笑顔になっているんじゃないかなと思いました。だから私はいつでも元気でいようと思いましたが、なぜならおじいちゃんみたいにいつでも笑顔になれるのではないかと感じたからです。

【中学校の部 佳作】

助け合い

東中学校 2年

コルテス ベルナディーン アン アキノ

三月十一日の木曜日、卒業式で休みだった日に、家にバスケットコートがあるので、友達と一緒にバスケットをして遊んでいました。ボールを手に持ちながら走ると私は左足をねん挫してしまいました。私は痛かったので、しばらく立ち上がれませんでした。立ち上がった後、私は歩こうとしたのですが、痛みが止まらず、結局赤ちゃんみたいにはいはいをしていました。

次の日の金曜日に妹の幼稚園の謝恩会があったので学校を休んで夕方五時まで一人で家に居ました。立ち上がろうとしても転んだりしていた中で、自分の昼食の準備していました。ここで思ったことは、ねん挫は今までは簡単な怪我であると思いました。しかし、ひどいねん挫をすることは大変であると感じました。私はその痛みが止まらなかったため、次の日の土曜日に整形外科へ行く事にしました。

整形外科へ行くと、すぐにレントゲンを撮りました。結果は、左足のくるぶし辺りの骨が右足よりのびていて、骨折しないで済みましたが、ひどいねん挫ということでした。医者に結果を伝えられた後すぐに足を固定されました。二、三週間固定しないといけないので松葉づえ生活になりました。固定した後、看護師さんに「いつねん挫したの。」と聞かれて、木曜日と答えたら「二日間つらかったね。よく

がんばったね。」と言われて今まで大変だったことを認めてくれた感じがして、思わず少し涙が出てきました。優しい言葉は人を救うことができるのだと感じました。そこから私は約一時間松葉づえトレーニングをしました。最初は全く出来なかったのですが看護師さんに優しく教えてもらったおかげで出来るようになりました。

その後ビッグヨーサンに行ったら、すぐ足とわきが痛くてそれでも松葉づえで動いてみたのですが、げんかいで車に戻りました。私は今まで松葉づえなんか余裕だと思っていたのにこんなに大変なのだと思いました。長い期間松葉づえを使っていた人、使っている人の気持ちがよく分かりました。私はどうして今まで余裕だと思って考えたんだと後悔しました。

私は整形外科の診断結果を、一緒にバスケをした人にラインをしたら「笑」としか返ってきませんでした。私は「お大事に」とか「大丈夫？」の言葉が出てくると思ったけど笑われてさみしい気持ちになりました。それでも私は一人もねん挫して欲しい人はいないので私は怒る事が出来ませんでした。一年担任だった先生にコロナにかかった人に対して笑われたりいじめられる事が世の中にあると聞いた事がありました。私はその行いが全く許せません。本当はかかりたくなかったし、もうコロナにかかった時点で世界中の人々が苦しんでいます。それに加えていじめるなんて許せません。

私はしばらくもうすぐで一年が終わるのに学校に行けない気持ちがとても悲しくて、一日家に居る間ご飯を食べないでずっと泣いてる日もありました。

しかし、私が学校に行くと、思った以上に荷物をとって

くれたり、自分と一緒に移動してくれたり、イスをひいてくれたり、一番仲の良い友達がトイレまでつれていってくれました。話をしていない人からも「ゆっくりでいいよ。」「大丈夫?」「無理しないで。」と言われ、思った以上に助けられて、みんなの行動や言葉に感動してしまいました。

この世界に生まれた時点でどんな人でも みんな一人一人特別です。なので世界中皆で協力して生きやすい世の中にしたいです。

【中学校の部 佳作】

認知症になってしまった祖母

東中学校2年 中里 海斗

私には、幼ない頃に認知症を発症した祖母がいて、今は介護施設に入所しています。コロナが、流行する前までは一週間に一回会いに行っていました。祖母は、私のことだけなんとなく分かってくれていて、会いに行くとニコッと笑ってくれます。幼ない僕を大切に育てたことが祖母自身の心の中に残っていて、覚えてくれているのかなと思っています。認知症（アルツハイマー病）は治ることのない病気です。発症したら、遅らせることしかできません。そして、どんなに気をつけていても、どのような対策をしていても、なってしまう病気であると、母から聞いた時は、ああ、あの時の優しい祖母の姿はもう見られないんだなあと少し寂しく思えました。私が、初めて施設へ祖母に会いに行った時、正直、早く帰りたと思いました。私の来ている意味が分かりませんでした。施設の帰り道に車の中で、母に「なぜ、僕を連れてきたの？」と聞いたら、母は強めに「海斗は大切に育てられていたんだよ。おばあちゃんはなりたくてなっているんじゃない」と言いました。母の言葉を聞いて私は、行動を改めようと思いました。母の「なりたくてなっている人なんかいない」という言葉を頭の中に入れて毎日生活していくことにしました。すると、日々の生活の中で、常に困っている人に目がいくようになりまし。ベビーカーを押している人、けがをしている人。今その人たちに何をしてあげられるのか、助けられるのか、

世の中にはたくさん困っている人がいることに気がつきました。

つい先日、カフェで食事をしている時、隣に松葉杖を持ったお姉さんが座っていました。食事が終わって、カウンターに食器を片づける時に、松葉杖で食器を片づけるのが大変そうだなと思って声をかけようと思いました。見守ってしまいました。なぜ、声がでなかったのかというと「お手伝いしましょうか？」と言って「大丈夫です。」と断られるのが嫌だったからです。でも、松葉杖をついて大変そうに食器をカウンターに戻す姿を見て、ああやっぱり声をかければ良かったと後悔しました。困っている人に積極的に声をかけていくということが、今後の僕の課題です。

病気やけが、障害がある人はなりたくてなっているのではない、だから誰もが気軽に、助け合えるような社会になれば良いと思います。

福祉推進標語

【最優秀賞】

真心は マスクでかくさず 伝えよう

栗原小学校6年 吉村 倅汰

【優秀賞】

わたしの手 人をおもう手 たすける手

座間小学校2年 伴野 楓

寄りそって 互いにかわす ありがとう

相模が丘在住 藤田 宗太郎

【佳作】

わたしたち あなたのえがお まもるから。

相模野小学校3年 菊池 優子

あなたの手 みらいを支える やさしい手

東中学校2年 榊 瑠衣

差しだした 優しい その手に咲く笑顔

新田宿在住 岩堀 多起子

知ることは思いを寄せること 次は ひと声 かけてみたい。

相模が丘在住 鳥海 直子

令和3年9月

座間市福祉部福祉長寿課 作成

